

テイチクの設立は1934年2月だった。その年の暮れ、「ダイナ」が発売された。歌は大ヒットし、テイチクへの見事なクリスマスプレゼントとなった。

文 山川智

「ダイナ」はアメリカ生まれである。1925年、楽曲は巻に流れた。

「ダイナ」はいろいろな歌手に唄われた。

ルイ・アームストロング、デューク・エリントン、

キャブ・キャロウェイ、ベニー・グッドマンらもカバーした。

中でもビング・クロスビーと

ザ・ミルス・ブラザーズの歌に人気が集まった。

そんな歌が1934年12月、

ディック・ミネの訳詞で唄われて

テイチク最初の大ヒットとなった。

ところで、この曲を日本で最初に歌ったのは、

訳詞も手がけたジャズシンガー中野忠晴と

コロムビア・リズム・ボーイズであった。

同年5月にコロムビアから発売された。

当然、詞の内容は違う。

ディック・ミネは

「おおダイナ：私の恋人

胸にえがくは美わしき姿 おお君よ

と唄ったが、中野は

「ダイナ：聞かせて頂ダイナ

泣かせて頂ダイナ

と洒落で唄った。

当時の日本人は洒落歌よりも、

恋歌に軍配を上げたのだ。

ディック・ミネ

バク奥くアメリカ情緒を匂わせて唄う歌手だった。



1932年、ビング・クロスビーと組んで「ダイナ」をヒットさせたThe Mills Brothers

## 昭和歌謡 誕生物語 [第21巻]

# ダイナ

ディック・ミネ

日本のジャズ歌手の草分けの一人であり、また天下のプレーボーイとして数々の伝説を残した人物。それがディック・ミネ（本名・三根徳二）だろう。

父は東京帝国大学卒の教育者で土佐中・高の初代校長。母親は日光東照宮司の娘という血筋に生まれた彼は、立教大学在学中に通い始めたダンスホールでジャズに傾倒。アルバイトで歌ようになった。

大学を卒業後、父親の勧めでいったんは通信省貯金局に就職。だが、音楽の道が捨て切れない。そこでタンゴ楽団に参加、歌手兼ドラマーとして活動する中、声をかけてきたのが、淡谷のり子だった。

「おにいさんなら、絶対にプロの歌い手になれるわよ！」

淡谷に見出された彼は、昭和9年（1934）8月、「ロマンチック」でデビュー。次いで12月に発売され、テイクレコード創立の年に大ヒットとなったのが「ダイナ」だった。「ダイナ」は1925年にアメリカで発売されたポピュラー・ソング。それをディック自身が訳詞し、歌だけでなく編曲、演奏も担当。ビッグヒットに導いた。

ところで、芸名のディックにはどんな由来があるのか？

六本木でパパを経営していた息子さんに尋ねたことがある。すると――。

「なんでも立教の在学中に所属していた相撲部でふんどしを締める際、アメリカ人教師から、ディック（英語で男性器のスラング）がデカイ！と驚かされたことがあって（笑）、以来、それを芸名にした、という話です」

そういえば、昭和50年代には某男性誌で「巨根に訊け」という連載を持つなど、そちら方面の武勇伝は数知れなかったようだ。

ちなみに、彼が生涯で籍を入れた女性には4人（内縁関係を加えると5人）。彼女たちとの間に10人の子どもがいたが、息子さんの話では、「別れるたびに全財産を相手に渡してしまっているので、付き合った女性で父を悪く言う人はいません。子どもたちも皆、父を慕っています。子どもたちも皆、父を慕っています。母親が違っても仲が良いんですよ」とのことだった。

70歳を越えても都道府県に1人ずつ現地妻がいると豪語していたディック。生涯最後のステージは平成2年（1990）夏に行なわれた「日本歌謡祭」。衰弱して思うように声も出ない中、渾身の力を振り絞るように熱唱したのが、この「ダイナ」だった。

山川智 ●1916年東京生まれ。テレビ制作会社、週刊誌記者を経てフリーランスに。著書に「東方神起の謎」「東方神起 JYJを行く」「共にイーストプレス」「ビートルズとキム・ノット」「リール出版など。また出版プロデュース作品として、生きる 養父集（「スター出版」）、アキの社員（「狂言堂」）（共にイーストプレス）など多数。